

## 2024年度夏期コース報告

加藤 陽子

### 1 はじめに

本稿は2024年6月20日（木）より8月7日（水）まで行われたアメリカ・カナダ大学連合日本研究センター（以下、IUC）の夏期コースの報告をするものである。IUCは9月から翌年の6月に至る10か月間のコース（以下、レギュラーコース）とは別に、6月下旬から8月上旬の期間、7週間の夏期コースを実施している。本年度の夏期コースは、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う行動制限が撤廃され、完全対面授業に戻って2回目の夏期コースであった。本稿では以下、第2章で夏期コースの特徴、第3章で教育活動の概要、第4章で正課活動、第5章で準正課活動と課外活動、第6章で受講生による評価について報告し、第7章で今後の課題を述べる。

### 2 夏期コースの特徴

夏期コースの目的、そして特徴については、昨年度の夏期コース報告である佐藤（2023）に詳しい。重複する部分もあるが、まとめるならば、IUC夏期コースの特徴は以下の3点に集約される。

第一点目は、専門性を備えた中・上級の学習者を対象としていることである。IUCのレギュラーコースのアドミッションポリシーには「教室内外での主体的学習を通じて、学問あるいは実務に必要な高度な日本語力を身につけようとする意志のある者を受け入れる。」とあり、具体的な入学条件の一つとして、「大学院生もしくは大学院進学予定の大学生、または、日本関係の分野に従事している社会人で大卒以上の学歴を持つ。」という項目がある。この点においては夏期コースの受講生もほぼ同様である。実際、今年度の受講生34名のうち、31名は大学院に在籍する大学院生、2名は大学院に進学予定の学部卒業生、1名は社会人であった。また、受講生は主に北米の大学院に在籍しており、専門は、アジア研究、文学、美術史、日本語学、歴史学など人文科学系の学問分野を中心に多岐にわたっていた。受講生は、それぞれの専門分野の内容を日本語で読んで理解し、正確に口頭で伝達し、議論することが円滑にできる上級の能力を身につけるべく、日本語能力の向上に励む。

第2点目は、目標言語が日常的に話される環境に身を置いて集中的に日本語を学ぶということである。受講生は、教室があるビルの5階に着いた時から全て日本語だけを使ってコミュニケーションすることが求められる。教師や事務局からの連絡、同じ受講生同士の会話、授業での説明はもちろん課外活動まで全て日本語のみで行われる<sup>1</sup>。このような徹底

的に日本語に浸る環境において、受講生は、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を充分に使って教室で学んだことを実践し、コミュニケーションに成功したり、失敗してさらなる課題を見つけたりしながら、日本語を使うという経験を積み重ねていく。

第3点目は、この夏期コースが横浜の地で行われるということである。IUC横浜の所在地であるみなとみらい地区は、1983年に開発が始まった計画都市であり、横浜の都心と言われる場所である。近隣には美術館、博物館、図書館などの文化施設が充実しており、近場で様々な文化的体験ができる。とりわけ、1859年に日米修好通商条約によって開港し外国貿易の拠点となった横浜は、歴史的にも意味のある場所と位置付けられ、開港に関連する博物館（横浜開港資料館）・建築物（横浜開港記念会館）や港湾施設など、地域に特徴的な施設も多い。さらに、横浜は東京にもアクセスがよく、国立国会図書館、博物館、大学等の研究施設にも出かけやすいという特長がある。受講生はこのように文化的に、また研究の面でも豊富な体験を享受することが可能な横浜の地で、日本語を鍛えることができるのである。

以上のような3つの特徴を持つIUCの夏期コースは、稿末の資料（IUC Summer Program 2024 全体予定表）にあるように、月曜から金曜まで、一日につき4コマ（1コマ50分）の授業を約7週間行うという形で実施された。その教育活動の詳細について資料1を参照しながら次章で概要を述べたい。

### 3 教育活動の概要

通常授業の開始前の週に、プレースメントテスト（筆記試験とオーラル試験）が行われ、その結果により受講生は習熟度別に編成された6クラスに1クラス5～6名の割合で配置された。また、翌日の全体オリエンテーションでは、夏期コース全体の注意事項が伝達され、続くクラス別オリエンテーションで、クラス担任よりクラスの目標、教科書の使い方や資料のWeb上の保管場所、課題等について指示があった。同日行われた、災害に備えた避難訓練、歓迎会を経て、6月24日（月）から約6週間続く通常授業が開始された。

通常授業は、週5日、一日4コマ行われ、午前中に2コマ（①10：00-10：50 ②11：00-11：50）、午後に2コマ（③12：50-13：40 ④13：50-14：40）と等分に配分された<sup>2</sup>。各週の金曜日午後には校外学習が行われた<sup>3</sup>。

通常授業開始後3週間の段階で中間試験、6週間終了の段階で期末試験（いずれの試験も、筆記とオーラル試験）が行われ、その後、クラス担任から各受講生に対する試験のフィードバックがなされた。7週間目には、各受講生の関心のある話題（専門分野の話題など）から自由に選択し、一人当たり15分の持ち時間で発表と質疑応答を行う発表会が行われた。また、最終日には、各受講生に対してクラス担任による面談が行われ、夏期コース全体での学習状況の振り返り、発表会のフィードバック、今後の学習への助言などがなされた。

当コースの修了要件を満たした者には、修了式において修了証が授与された。

## 4 正課活動

習熟度別に編成されたクラスには、担任（1名）と副担任（1～2名）が配置され、チームティーチングでクラスの運営が行われた。IUCが作成した教材である『新 待遇表現』<sup>4</sup>をすべてのクラスで使用し口頭のコミュニケーション能力の向上を図ったほかは、文法と読解を中心とした教科書・教材の選別は各クラスに委ねられた。また、教材の進度、教育活動の内容もクラス裁量で決定された。傾向としては、午前に文法・読解・漢字・待遇表現、午後に発表・討論・ニュース報告・会話などの内容が中心的に盛り込まれた。漢字の学習には、IUCで開発された『Kanji in Context』<sup>5</sup>（以下、KIC）をインターネット上で使えるようにしたWebKIC（[https://iucjapan.org/html/call\\_j.html](https://iucjapan.org/html/call_j.html)）が使われた。

### 4-1 クラス授業

以下では、各クラスの教育活動を受講生に配布したシラバスを掲載する形で授業の内容を紹介する。

#### 4-1-1 夏海クラス

##### 【コース目標】

##### 1. 読む

多様なテーマ・ジャンルの文章が読める。

使用されている語句や表現から、テーマに対する筆者の立場を理解することができる。

表現のかたさややわらかさを理解し、想定される読者を想像することができる。

##### 2. 聞く

ニュースなどが聞き取れ、理解することができる。

##### 3. 話す

発音練習を反復し、より自然な発音を身につける。

学術発表、ビジネスの場などにふさわしい話し方ができる。

他者に配慮した発話ができる。

##### 4. 書く

文章中の語句を用いて内容をまとめることができる。

文章中の語句や構文を用いて作文ができる。

プレゼンテーションスライドを制作することができる。

定型表現を用いて短時間でEメールを書くことができる。

表1 夏海クラス時間割

	月	火	水	木	金*
10:00-10:50	待遇表現	待遇表現	待遇表現	待遇表現	待遇表現
11:00-11:50	読解	文法	読解	新聞報道	復習／活動
12:50-13:40	読解	文法	読解	新聞報道	校外学習
13:50-14:40	議論・発表	文法*	議論・発表	新聞報道*	校外学習

\* 金曜日は週により授業内容と時間が異なる。

\* 火曜日と木曜日にニュース報告と表現練習を適宜実施する。

#### 【使用教材】（一部）

小川誉子美・三枝玲子（2019）『日本語文法演習 ことがらの関係を表す表現—復文—（日本語文法演習—上級—）』スリーエーネットワーク

目黒真実（2010）『上級学習者のための日本語読解ワークブック』アルク

### 4-1-2 夏草クラス

#### 【コース目標】

##### 0. 総合面

- ・ 具体的及び抽象的な観点で情報を把握し、表現することができる。
- ・ 話題や論点に一貫性を持たせることができる。

##### 1. 読む

- ・ 多様なテーマ・ジャンルの文章が読める。精読・速読ができる。
- ・ 筆者の意図を理解し、構成を意識し、次の展開を予測しながら読むことができる。

##### 2. 聞く

- ・ 日常的なやり取りやディスカッションで相手のニーズ・要点などを聞き取ることができる。
- ・ ニュース・発表などで発音・イントネーションなどを聞き取り、意図が理解できる。

##### 3. 話す

- ・ 目的・文脈に応じ機能的に適切な表現、相互作用・談話管理（発言権の適切な取得や裏付け部分と主要論点の区別をつけるなど）のストラテジーを使うことができる。
- ・ 自分の経験を雑談形式で始め、一定の長さ話し続けて終わることができ、簡潔に叙述・描写ができる。
- ・ 相手の意見をまとめたうえで、自分の意見を簡潔に述べ、適切に問題提起ができる。

##### 4. 書く

- ・幅広い話題について目的・文脈に応じて適切な語彙・表現を使い、まとめることができる。
- ・構成と議論の掘り下げにより論点が一貫した文を明確に書くことができる。
- ・発表用原稿、スライド、メールを書くことができる。

表2 夏草クラス時間割

	月	火	水	木	金
10:00-10:50	出来レポ スピーチ 語彙表現	出来レポ スピーチ 語彙表現	出来レポ スピーチ 語彙表現	ニュース メールの 書き方	表現小テスト ニュース 文法
11:00-11:50	読解	読解	読解	読解	読解討論
12:50-13:40	待遇表現	待遇表現	待遇表現	待遇表現	校外学習
13:50-14:40	文法	発表・議論	発表・議論	復習	校外学習

【使用教材】（一部）

近藤安月子他著（2006）『上級日本語教科書 文化へのまなざし』東京大学AIKOM日本語プログラム

文藝春秋オピニオン（2024）『2024年の論点100』文藝春秋

NHK NEWS WEB <https://www3.nhk.or.jp/news/>

4-1-3 夏柳クラス

【コース目標】

1.読む

- ・中上級日本語学習者のための読解文章が正しく読める。
- ・文章の文化的背景を意識して読むことができる。

2.聞く

- ・ニュースでよく使われる語彙や表現を聞き取れる。
- ・場面に応じた日本語表現を聞き取れる。

3.話す

- ・場面に応じた日本語表現で話せる。
- ・発表や討論で使う定型表現を使って話せるようになる。

4.書く

- ・文法的誤用の少ない日本語を書けるようになる。
- ・適切な漢字や語彙を使って日本語を書けるようになる。

表3 夏柳クラス時間割

	月	火	水	木	金
10:00-10:50	文法	文法	文法	読解	読解
11:00-11:50	待遇表現	待遇表現	待遇表現	読解	読解
12:50-13:40	聞く	漢字・語彙	聞く	発表	校外学習
13:50-14:40	討論	文作り	討論	話し合い	

## 【使用教材】

瀬川由美他 (2010)『ニュースの日本語 聴解50《中級後半～上級レベル》』スリーエーネットワーク

友松悦子・和栗雅子 (2004)『短期集中 初級日本語文法総まとめ ポイント20』スリーエーネットワーク

仲山淳子 (2021)『日本語文法ブラッシュアップトレーニング』アルク

目黒真実 (2009)『中上級学習者のための 日本語読解ワークブック』アルク

NHK NEWS WEB <https://www3.nhk.or.jp/news/>

## 4-1-4 夏山クラス

## 【コース目標】

## 1. 読む

- ・中上級レベルの日本語教科書に加え、実際の新聞記事や小説を読み、内容を理解する。

## 2. 聞く

- ・ニュースを聞き取り、内容を把握する。
- ・話し合いの中で他の人の意見、その根拠等を正確に聞き取る。

## 3. 話す

- ・テーマに沿った話し合いの場面で自分の意見が言えるようにする。
- ・場面に応じた敬語表現を使って話す。

## 4. 書く

- ・論理的な文章構成を意識しながら、自分の意見を400～600字程度の文章にわかりやすくまとめる。
- ・最終的に3000字程度の発表スクリプトを書く。

表4 夏山クラス時間割

	月	火	水	木	金
10:00-10:50	待遇表現	待遇表現	待遇表現	待遇表現	待遇表現
11:00-11:50	文法	文法	文法	文法	文章の書き方
12:50-13:40	読解	読解	読解	読解	校外学習
13:50-13:40	読解の続き 話し合い ニュース報告	読解の続き 話し合い ニュース報告	読解の続き 話し合い ニュース報告	読解の続き 話し合い ニュース報告	

## 【使用教材】（一部）

奥山貴之・宇津木奈美子・東会娟（2020）『考える人の【上級】日本語読解』凡人社  
二通信子・佐藤不二子（2020）『新訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク

## 4-1-5 夏鳥クラス

## 【コース目標】

## 1. 読む

新しい語彙や文型表現を学ぶ。

短い新聞記事や小説、評論文を読めるようになる。

## 2. 聞く

自然な速さの日本語を聞き取る力をつける。

## 3. 話す

自分の意見を分かりやすく相手に伝えられるようになる。

場面や相手に応じて、適切な表現が使えるようになる。

## 4. 書く

話し言葉と書き言葉の使い分けができるようになる。

読んだ内容やそれについての自分の意見を簡潔に書けるようになる。

表5 夏鳥クラス時間割

	月	火	水	木	金
10:00-10:50	読解	読解	読解	読解	読解
11:00-11:50	読解	読解	読解	読解	読解
12:50-13:40	待遇表現	文法	待遇表現	文法	校外学習／文法
13:50-14:40	発表と話し合い	発表と話し合い	発表と話し合い	発表と話し合い	校外学習／発表と話し合い

## 【使用教材】

清水正幸、奥山貴之 (2023)『日本語学習者のための読解厳選テーマ10 中上級 改訂版』  
凡人社

友松悦子・和栗雅子 (2004)『短期集中 初級日本語文法総まとめ ポイント20』スリーエー  
ネットワーク

#### 4-1-6 夏空クラス

##### 【コース目標】

##### 1. 読む

- ・効果的に読むための手がかりを知り、必要な情報を見つけられるようになる。
- ・論理的文章の構成を知り、学術論文を読むための基礎となる表現や文型が理解できるようになる。

##### 2. 聞く

- ・ある程度の長さを持つ口頭発表やニュースなどを聞き取り、理解できるようになる。
- ・日常的な会話やディスカッションで、相手の話の要点を聞き取れるようになる。

##### 3. 話す

- ・まとまった情報をわかりやすく伝えることができるようになる。
- ・人間関係や場面・内容に合った話し方ができるようになる。
- ・聞いたり読んだりして得た情報をもとに、あるテーマについて説明したり意見を述べたりすることができるようになる。

##### 4. 書く

- ・適切な文型や表現や語彙を使って、内容や目的にふさわしい文章が書けるようになる。

表6 夏空クラス時間割

	月	火	水	木	金
10:00-10:50	文法 (クイズと漢字)				
11:00-11:50	読解	読解	読解/聴解	読解	読解
12:50-13:40	待遇表現				校外学習
13:50-14:40	会話・スピーチ				校外学習

##### 【使用教材】

アカデミック・ジャパニーズ研究会編著 (2015)『改訂版 留学生の日本語 読解編』アルク

友松悦子・和栗雅子著 (2004)『初級日本語文法総まとめポイント 20』スリーエーネットワーク

## 5 準正課活動・課外活動

本章では、準正課活動として行った校外学習と所長による授業訪問について報告する。また、課外活動として一部の学生が行った会話パートナーとの会話練習について活動の概要を報告する。

### 5-1 校外学習

校外学習は、受講生がクラスの外に出て日本語に触れたり日本文化を経験したり見聞を広めたりするためのもので、毎週金曜日の午後に計5回実施された。

第1回は、6月28日に行われた「東京の日」で、受講生は、明治神宮・近代美術館・国立博物館・赤坂離宮の4つの中から希望する行先を一つ選択し、見学を行った。

第2回は7月5日に行われた「鎌倉の日」で、受講生は全員で鎌倉の円覚寺を訪問し、庭園を散策したり、住職の指導の下で座禅を体験したりした。

第3回は、日本舞踊中村流の八代目家元、二代目中村梅彌氏による講演会で、7月19日に国際協力センター6階会議室で行われた。内容は、日本舞踊の誕生と発展、服装や道具、演目などについての中村氏によるお話と実演、扇子などを使った受講生の日本舞踊体験、質疑応答などであった。

第4回は、7月5日に行われた「横浜の日」で、受講生は、海外移住資料館・神奈川県立博物館・日本銀行横浜支店・キリンビール横浜工場の4つの中から希望する行先を一つ選択し、見学を行った。

最後の第5回は、クラスごとに行先を決め、見学を行った。行先は、渋沢栄一資料館や、神奈川県立近代文学館、プラネタリア横浜や新江ノ島水族館など、様々であった。受講生はクラスの教師と共に見学を行い、解説文の日本語を理解したり、上映作品の日本語を聞き取ったり、横浜港の臨海地区や湾岸施設、相模湾の生態などについて理解を深めたりした。

### 5-2 所長によるクラス訪問

授業中に各クラス20分～50分程度、所長が訪問し、受講生と交流を行うというクラス訪問が、サマーコース開始から第4・5週目の7月16日（火）～25日（木）の間に行われた。内容は主に、受講生が質問し所長が答えるというもので、受講生が敬語を実際に使用する機会となるだけでなく、IUC所長としての仕事や経験、日本研究者としての側面も知る機会となった。

### 5-3 会話パートナー

課外活動として、会話力の向上が必要だと担任が判断した受講生と日本語母語話者がべ

アを組み、一対一で会話の練習をする「会話パートナー」が行われた。これは、毎週一回、一回20分間、WEB会議システム Zoomが対面で行われ、14名の受講生が参加した。IUCのレギュラーコースで勤務する教材助手と、ボランティアで参加した日本語教育に関心を持つ近隣の大学の学部生がパートナーとなった。受講生にとっては、年齢の近い人と自由な話題について話し、会話に慣れる機会となった。

#### 5-4 その他：授業見学

受講生が主体的に行う活動ではないが、今期のサマーコースでは、授業見学が例年より多く行われた。これは、IUC加盟校の教師が来日して7月8日・9日に行われたPedagogy Workshopの中に授業見学が組み込まれていたことと、会話パートナーによる授業見学がサマーコース第5・6週に計画されたことによる。また、主任と副主任も、受講生の授業中の様子を見るために、必要に応じて見学を行った。見学者がクラスの外から、あるいはクラス内に着席して授業を見学することが主であったが、会話の練習に見学者の会話パートナーが参加し受講生と交流する場面もあった。

### 6 受講生による評価

コース終了時に、Google Formを用いてアンケートを実施し、修了した33名中7、18名から回答を得た（回答率54.5%）。質問項目は昨年と同様、A.プログラム全体、B.クラス授業、C.準正課活動、D.課外活動、E.教職員、F.奨学金、G.生活面を評価するもので、英語で実施された。本章ではおおむねこの順に沿って各項目の結果を述べる。

#### 6-1 プログラム全体の評価

Aのプログラム全体への評価は、4件法でExcellentが55.6%（10名）、Goodが38.9%（7名）、Fairが5.6%（1名）、Poorが0%であり、おおむね満足している様子がうかがわれた。自由記述欄の肯定的なコメントとしては、「サマーコースを通して能力が向上し、学術的なことを日本語で話したり読んだりする準備ができた」「プログラム全体のデザインが良く、力が伸びた」「大変だと感じたこともあったが、コースのペースを楽しむことができ、いくつかの部分で伸びを実感した」などがあった。否定的なコメントとしては、「多くの単語や文法表現を認識できるようになったが、それを使って話したり書いたりする練習が十分でなかったとも感じる」などがあった。続く「このプログラムを他の学生に薦めるか」という質問に対しては、「はい」という答えが100%であった。コメントにも「他の学生に100%薦める」「今まで多くのクラスメートがこのプログラムに参加し、短期間で日本語力が上がったのを目の当たりにしてきた」などのプログラム全体を高く評価する言葉が並んだ。

## 6-2 教育内容（授業内容）

クラス授業全体については、4件法でExcellentが66.7%（12名）、Goodが33.3%（6名）、FairとPoorを選んだ受講生はいなかった。コースの進捗については、3件法でJust rightが72.2%（13名）、Too fastが22.2%（4名）Too slowが5.6%（1名）であった。難易度については、3件法でJust rightが83.3%（15名）、Too easyが16.7%（3名）、Too difficultを選んだ受講生はいなかった。この結果から、進捗・難易度について「早すぎる／遅すぎる／易しすぎる」と判断した受講生が数名いたものの、クラスの授業、進捗、難易度についてはおおむね満足できる授業内容だったのではないかと判断できる。

教材については、質、量、難易度の3つの点から質問があった。質については、4件法でExcellentが50%（9名）、Goodが50%（9名）であった（Fair及びPoorは0%）。量については、3件法でJust rightが83.3%（15名）、Too muchが11.1%（2名）Too littleが5.6%（1名）で、難易度については、3件法でJust rightが77.8%（14名）、Too easyが16.7%（3名）、Too difficultが5.6%（1名）であった。おおむね高い評価であると考えられるが、自由記述のコメントには「教材の選択が非常に良かった」という肯定的な内容のコメントと、「単語リストが不統一だった」「授業後半の教材の難易度と長さが一定していなかった」という一貫性に欠ける点を指摘するコメントの両方があった。

宿題については、質と量の点から質問があった。質については、4件法で Excellentが33.3%（6名）、Goodが61.1%（11名）、Fairが5.6%（1名）、Poorが0%で、量については3件法でJust rightが72.2%（13名）、Too muchが27.8%（5名）Too littleが0%であった。自由記述のコメントには、宿題が多くて圧倒されそうになったというコメントが散見された。

運用力の近い2クラスが合同で授業を行う機会があり、夏空クラスと夏鳥クラス、そして夏海クラスと夏草クラスがそれぞれ一回ずつ授業をともした。これについては、参加した受講生の72.7%（8名）がExcellent、18.2%（2名）がFair、9.1%（1名）がPoorと評価し、他クラスの受講生との交流がおおむね好意的に受け止められていることがわかった。

発表会については、4件法でExcellentが61.1%（11名）、残り（38.9%,7名）が全てGoodと、高い評価を得た。自由記述欄には、「発表の自由度が高かったのが良かった」「クラスで発表し、修正してから本番に臨めたのが良かった」「発表会は素晴らしい集大成ではあるが自分のクラスも他のクラスのようにもう少し準備の時間に余裕があったらもっと良かった」というコメントが寄せられた。

このように、プログラムの最も重要な要素である教育内容については、多くの項目で適正である、あるいは優れていると評価されており、おおむね受講生の満足が得られる結果であったと言えるだろう。

ただし、気になる点を挙げるとするならば、「クラスのサイズと受講生のレベル分け」の項目を指摘しなければならない。これについては、4件法で Excellentが27.8%（5名）、

Goodが61.1% (11名)、Fairが11.1% (2名) という結果であった。全体として取り立てて低い評価ではないのだが、レベル分けに関して、あまり予習してこないクラスメートがいてクラス内で能力差が開いて行ってしまったという指摘や、クラスメートの会話能力が高く会話がしにくかったという指摘があった。クラス全体の学習の状況を把握し、必要な受講生にはクラス替えをして対応することが必要であろう。一方、クラスサイズについては、5・6名という少人数なのでクラスに参加しやすく、それぞれの興味関心が違っていたので討論する話題も豊富で良かったという意見があった。

### 6-3 校外学習・所長訪問・会話パートナー

校外学習については、5回すべての回で5件法でExcellentという回答が50%を越え（東京の日55.6%、鎌倉の日77.8%、講演会66.7%、横浜の日72.2%、クラス別55.6%）、Goodという回答と合わせると肯定的な回答は実に8、9割にのぼり（東京の日88.9%、鎌倉の日94.5%、講演会88.9%、横浜の日83.3%、クラス別88.9%）、満足度の高さをうかがわせるものとなった。Poorという回答が1つもなかったことも高評価を裏付けている。自由記述欄にも「非常に楽しかった」「内容が素晴らしかった」「日本舞踊の講義が非常に啓発的だった」「座禅の時に警策で打たれるという夢が叶った」などのコメントがあった。一方、「午前中授業をして午後に出かけるという日程では忙しいので、朝から校外学習を計画してくれたらもっと活動に参加できて有益だろう」という感想もあり、授業時間とのバランスを考慮しつつ今後検討していきたい課題である。

所長訪問については、5件法で Excellentが44.4% (8名)、Goodが33.3% (6名)、Fairが16.7% (3名) 欠席のため不参加が5.6% (1名) という結果であった。自由記述欄には、「自分の将来の研究や仕事に備えるために非常に有用なお話だった」というコメントがあり、また、所長へのメッセージの欄にも「クラス訪問の際に、将来のために準備しておくべきことについての質問に答えていただいた」という感謝の言葉があった。

会話パートナーについて直接尋ねた質問はアンケートにはなかったが、「校外学習以外に楽しんだことがあったら教えてください」という自由記述の質問 (18名が回答) に「会話パートナーとの会話練習」という答えが3名から寄せられた。

全体的に見て、上記の準正課活動・課外活動も多くの受講生にとって満足の行くものであったと総括することができるであろう。

### 6-4 受講生の日常生活

本節では、受講生の日常生活が垣間見える質問の結果を紹介したい。

完全なエマルジョン環境は本夏期コースの特徴の一つであるが、それを達成するためには受講生自身の協力も必要である。授業と校外学習などで「日本語だけで話す」ことを徹底したかという問いには、94.4% (17名) がYesと答えた。自由記述欄のコメントには、「自

分ではできる限り日本語だけを使おうとした。日本語で友人と会話していて詰まった時に英語を使った人もいたが、すぐにその後日本語だけの会話に戻った」という回答もあった。上述のことから、受講者自身も極力日本語だけで話そうという努力を続けたことがわかる。

また、「他クラスの学生と話したか」という問いには、94.4%（17名）の受講生がYesと答え、クラス外での受講生同士の交流があったことがうかがえた。これは、第1・2・4回の校外学習によってクラスの垣根を越えて同じ行先に関心がある者が集まり、交流が生まれたことや、歓迎会やパーティー（注3参照）で交流の機会があったことも関係していると思われる。

「サマーコース期間中、（IUCのプログラムに直接関係する原因ではなくとも）ストレスを感じたり落ち込んだりしたか」という質問には55.6%（10名）がYesと回答していた。「それを解消するために何をしたか、また、将来このサマーコースを受講する後輩に助言があるとしたらどんなものか」という質問には、「十分に休む」「バーで友達と飲む」「全て完璧にできなくても気にしない」「サマーコース以外の友人のグループを見つけ、何かをそこで教えることを通して、教わるだけの生活とのバランスを取る」などという回答が寄せられた。また、体調不良で医療機関の受診が必要だった受講生からは、授業を欠席せざるを得なくなった場合に所長や主任などによく相談することと、自分の場合、国でかけた海外旅行保険が日本で受け付けてもらえなかったことで、そのような場合もあることを承知しておくことが大切だという回答があった。他にも保険をかけておくことの大切さを訴えるコメントがもう一件あった。

以上のように、受講生は日本語だけを使うことに努め、他のクラスの受講生とも積極的に交流を行ったことがうかがえるが、半数以上の受講生がストレスを抱え、それを自分なりの方法で解消しながら毎日を送っていったことがわかる。日本語能力の向上のために有益な学習環境の中で、感染症をはじめとする病気に罹患しないように、また、心の健康も保って勉学に専念できるように、良い日常生活の環境づくりに努める必要性を実感するアンケート結果であった。

## 7 今後の課題

本章では、上記の受講者からの評価とコース終了日に行った教職員の反省会で出た意見をふまえ、今後の課題を整理したい。

### 7-1 病気の受講生への対応

今期は、急性の病気でドクターストップがかかり、コースの終盤に欠席を余儀なくされた受講生が2名いたが、その他には、特に持病が悪化したり、慢性的な体調不良を訴えたりする受講生はいなかった。風邪や胃腸炎などの体調不良により一時的に欠席した受講生は

数名見られたものの、新型コロナウイルスに罹患した受講生もいなかった。事務局が、受講生が横になって休める休憩室を設けたり、熱中症対策として経口補水液を準備しておいたりしてくれた<sup>8</sup>が、幸いにも使用することはなかった。今後も夏は酷暑が続くと予想され、体調を崩す受講生も一定数いると考えられることから、そうした状況に対応できる態勢を整備・拡充しておくことが今後とも必要であろう。また、体調不良の受講生から、病院に行く時、医療の専門用語を調べるのが大変だったという感想があったという。自分の症状を日本語で説明するための簡単な資料を今後備えるということも考えられるだろう。

## 7-2 教員の負担の軽減

「Very responsible — great teachers.」という受講生からの修了アンケートのコメントからもわかるように、IUC夏期コースの質の高さは、教える教員のスキルの高さと献身的な指導により担保されている。教員の負担を減らし、質の良い授業を維持してもらうためにできることの一つとして、1クラスの受講生を少人数に抑えることが挙げられる。今年は諸々の事情により、1クラス6名以下という少人数のクラスが実現した。教員からは、「少人数で細かい指導がしやすかった」「6名というのは2名ずつ、3名ずつというグループが作りやすい数だった」という好意的な意見が寄せられた。様々な条件により1クラスの受講生数の増減は今後もあると予想されるが、できるだけ6名程度にし、きめ細かい指導ができるような方向性が望ましいと考える。

また、教員の負担の軽減のために、資料の印刷、単語リストの作成、録音などの仕事について教材助手のサポートが存在する。教材助手には、週に一度、IUCに来てもらい印刷等の作業に当たったり、オンラインで作業をしてもらったりしたが、依頼した仕事が期日まで完成しなかったことがあった。この点は主任の仕事の管理という点で反省しなければならない点である。解決策として、サマーコースの前半に依頼したい仕事が増えることから、1.依頼期日を設け、授業開始前に作業が完了している必要がある場合はその期日までに依頼するよう手配する、2. サマーコース前半にIUCに来て作業する人員を増やす、3. 依頼した作業の完了までの流れを注意して見守る、などが教職員の反省会で挙げられた。

## 7-3 校外学習

校外学習は、近隣に文化施設が充実し、東京へのアクセスも良い横浜というIUCの立地の良さを肌で感じる機会でもあろう。6-3で述べた通り、校外学習には受講生から高い評価が寄せられた。しかし、30度を超える日が常態化し、「熱中症警戒アラート（熱中症警戒情報）」が発令されることが珍しくない近年では、受講生及び引率者の教員の健康を守るために、特別な配慮が必要となってきた。具体的には、炎天下での徒歩での移動を避けるための移動手段の確保、こまめな水分補給を促すための配慮や指導（塩飴の配布やボトル携行と水分補給の呼びかけ）などがそれに当たる。今後、「熱中症特別警戒アラート（熱

中症特別警戒情報)」が発令され、校外学習自体を中止せざるを得ない事態が起こる恐れもある<sup>9</sup>。このような中、「校外に出かける」というタイプの準正課活動の内容を一部見直し、屋内で過ごす活動を増やしていくという方向性が考えられる。例えば、IUC内で受講生同士のクラスの垣根を超えた交流を促す、講演会の回数を増やす、観劇や、伝統芸能・伝統工芸の文化的体験を近場で行う、などである。「学びの場を外に求める」という校外学習の特徴を維持しつつも、より安全で無理のない計画、確実な実施、予想外のことが起こった時の対応の計画など、備えておくべき点は多い。

#### 7-4 授業見学

5-4で述べたように、今期の夏期コースでは、例年に比べて授業見学(Pedagogy Workshop参加者、会話パートナー、主任・副主任による見学)の数が多かった。このうち、会話パートナーによる授業見学については、改善を要する点が指摘された。それは、目的が明確でないため担当教員が教室での対応に苦慮したという点である。この見学が、会話パートナー側からの希望によって実現したのか、それとも、何らかの交流を望む受講生からの希望によって実現したのか不明であったため、対応の仕方がわからなかったということである。口頭練習や議論などの教室活動の際に、会話パートナーに参加してもらったクラスもあったようだが、今後は見学の目的を明確にし、教師の負担とならないようにする必要がある。

授業見学は、見学者にとっては教育現場に参加する貴重な学びの場となり、受講生にとっては程よい緊張感をもたらす場、時には交流の場となる。今後はその目的を十分に周知徹底し、双方に益するような見学を進めることが期待される。

#### 7-5 教員の確保

昨年のコース報告である佐藤(2023)にも挙げられているように、本コースが実施される6月下旬から7月末までの期間は、日本の大学の学期中に当たり、その期間授業を担当してもらえる教員を確保するのは大変難しい。週に1日だけでも勤務可能な方をお願いした結果、担当教師が担任1名、副担任2名という3名体制になったクラスも3クラス存在した。これにより、引継ぎ連絡や全体の調整などで担任に負担をかけてしまう結果となった。また、それでも教員数が足りないため、レギュラーコースの専任教員に応援を頼むほかになく、今期は4名の専任教員の協力を得た<sup>10</sup>。本来、6月下旬からの期間は、レギュラーコースを終え、一年の総括をもとに次年度に使用する教材を作成したり、よりよい授業のための研究をしたりする時期である。その期間を専任教員が例年サマーコースの授業のために費やすことが適切か考えていく必要がある。また、安定的な教員の確保のために、他にできることはないか、IUC側が変えられる部分はないかも合わせて考えることが必要であろう。

## 8 おわりに

前章では主な課題を挙げたが、これ以外にも改善すべき点はある。中間試験の日程の柔軟化（クラスごとに中間試験の日を設ける可能性の検討）、受講生に連絡を確実に伝達する仕組み<sup>11</sup>、プレイスメントテストの実施方法など、今後に向けて検討すべき課題を少しずつ解決し、よりよいコースにしていくことが望まれる。

修了アンケートでは、クラス担任・副担任の先生方をはじめ、教職員に対して、その勤勉さを賞賛し支援に感謝するコメントが多数寄せられた。教員が働きやすい環境で、受講生から継続的に高い評価が得られるようなプログラムを今後も続けて行けるよう、改善を重ねて行きたい。

付記1 本稿の作成に当たり、クラス担任の先生方（本間光徳氏、川西由美子氏、高橋亜季氏、杉松香苗氏、後藤恵利氏、高橋佳奈子氏 順不同）と副主任（大橋真貴子氏）の御協力を得ました。記して感謝申し上げます。

付記2 コースの最中に、長年本夏期コースでご指導くださった城佳子先生の訃報に接しました。長年にわたるご尽力に感謝し、心より哀悼の意を捧げます。

### 注

- 1 例外は、所長との面談である。何か相談したい事がある場合に、所長室でのみ英語を使って話すことが許されている。
- 2 昨年度までは午前中3コマ、昼休みをはさんで午後1コマという構成であったが、今年度からこのように午前と午後を等分にし、開始時間を9:40から10:00に繰り下げた。
- 3 7月12日（金）の中間試験の日は校外学習は行われなかった。また、校外学習の終了時間は行先によっては4コマ目終了時間の14:40以降になる場合もあった。なお、本コースにおける「校外学習」の中には、同じビル内で行われた講演会も含まれている。
- 4 使用したのは2022年版であった。なお、この教科書は、2024年7月5日にThe Japan Times社より『20の場面で学ぶ敬語コミュニケーション—気持ちが伝わる中級からの日本語待遇表現』として刊行された。
- 5 アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター（2013）『Kanji in Context revised edition』The Japan Times社
- 6 同日、レギュラーコースの卒業生主催の同窓会が東京で行われ、サマーコースの受講生も数名出席し、楽しいひと時を過ごした。
- 7 入学時の34名から1名減ったが、これは、この受講生が家族の健康状態の悪化のため、サマーコース第4週目の半ばに参加をやめて帰国したことによる。

- 8 このほかにも事務局からは、近隣の病院のリストの作成と配布、体調を崩した学生の世話や、新型コロナウイルスの抗原検査などの支援を得た。
- 9 環境省が発表している「熱中症予防サイト」(<https://www.wbgt.env.go.jp/alert.php>)では、熱中症特別警戒アラート（熱中症特別警戒情報）の概要として以下のメッセージが掲げられている。

「校長や経営者、イベント主催者等の管理者は、全ての人が熱中症対策を徹底できているか確認し、徹底できていない場合は、運動、外出、イベント等の中止、延期、変更（リモートワークへの変更を含む。）等を判断してください。」
- 10 この他に、主任・副主任、漢文コースの副主任の3名がサマーコースに関わっており、専任教員10名のうち、実に7名がサマーコースの仕事を負担していることとなる。なお、レギュラーコースとサマーコースは独立したプログラムであり、レギュラーコースの専任教員がサマーコースに関わる時は、新たに雇用契約を結ぶことになっている。
- 11 現在は、受講生が自由に見られるオンライン上の掲示板（グーグルドキュメント使用）に連絡事項を掲載し、連絡内容を各クラスで口頭で確認してもらうという方法で情報の周知を図っている。

#### 参考文献

- 佐藤有理（2023）『2023年度夏期コース報告』『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター教育研究年報』第12号 pp.46-60  
<[https://www.iucjapan.org/pdf/nenpou2023\\_SatoAri.pdf](https://www.iucjapan.org/pdf/nenpou2023_SatoAri.pdf)>（2024.8.7閲覧）
- 千田昭予、橋本佳子、本間光徳、川西由美子、加藤陽子、後藤恵利、結城佐織（2021）  
「20-21年度夏期コース報告」『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター教育研究年報』第10号 pp.69-89  
<[http://www.iucjapan.org/pdf/nenpou2021\\_Senda\\_et\\_al.pdf](http://www.iucjapan.org/pdf/nenpou2021_Senda_et_al.pdf)>（2024.8.26閲覧）
- 橋本佳子、佐藤有理、加藤陽子、川西由美子、河野多佳子、後藤恵利、城佳子、本間光徳（2022）「2022年度 夏期コース報告」『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター教育研究年報』第11号 pp.72-92  
<[http://www.iucjapan.org/pdf/nenpou2022\\_Hashimoto\\_et\\_al.pdf](http://www.iucjapan.org/pdf/nenpou2022_Hashimoto_et_al.pdf)>（2024.8.26閲覧）

## 資料：IUC Summer Program 2024 全体予定表

6	20	木	プレイスメントテスト
	21	金	始業式・オリエンテーション/避難訓練・歓迎会
	24	月	通常授業
	25	火	通常授業
	26	水	通常授業
	27	木	通常授業
	28	金	午前授業+校外学習①東京の日 (明治神宮・近代美術館・国立博物館・赤坂離宮)
7	1	月	通常授業
	2	火	通常授業
	3	水	通常授業
	4	木	通常授業
	5	金	午前授業+校外学習②鎌倉の日：円覚寺 (座禅体験)
	8	月	通常授業
	9	火	通常授業
	10	水	通常授業
	11	木	通常授業
	12	金	通常授業 (中間試験を含む)
	15	月	休日 (海の日)
	16	火	通常授業 (個人面談を含む)
	17	水	通常授業
	18	木	通常授業
	19	金	午前授業+校外学習③講演会：中村梅彌氏 (日本舞踊)
	22	月	通常授業
	23	火	通常授業
	24	水	通常授業
	25	木	通常授業
	26	金	午前授業+校外学習④横浜の日 (海外移住資料館・神奈川県立博物館・日本銀行横浜支店・キリンビール横浜工場)
	29	月	通常授業
	30	火	通常授業
	31	水	通常授業
8	1	木	通常授業
	2	金	午前授業+校外学習⑤クラス別校外学習
	5	月	通常授業 (期末試験を含む)
	6	火	発表会
	7	水	個人面談・修了式